

平成26年度「しまね社会貢献基金団体活動支援事業」実施事業

しまね社会貢献基金団体活動支援事業は、県民、企業の皆さまからいただいた御寄附により、しまね社会貢献基金登録団体が実施する事業です。

	事業名	団体名	完了年月日
1	中国における砂漠緑化および環境意識啓発	特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会	H26.6.3
2	重症心身障害児（者）療育キャンプ	島根県重症心身障害児（者）を守る会	H26.7.26
3	第5回八雲国際演劇祭の照明器具設置改善事業	特定非営利活動法人あしづえ	H26.8.5
4	「世界のこども劇場 2014」視察事業	特定非営利活動法人あしづえ	H26.8.6
5	自閉症スペクトラム支援啓発事業	発達障害児支援サークル「のびのび」	H26.8.10
6	第5回八雲国際演劇祭の画像録画システム設置事業	特定非営利活動法人あしづえ	H26.8.25
7	中国からの日本訪問団受入、交流	特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会	H26.8.28
8	きょうだい支援交流キャンプ	島根県重症心身障害児（者）を守る会	H26.8.29
9	福祉連携による六次産業化推進事業	NPO法人日本エコビレッジ研究会	H26.8.31
10	防災力アップ学習会	コープおたがいさまいずも	H26.9.19
11	中国との経済交流の促進、在日中国青年との交流と支援事業	特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会	H26.9.24
12	平成26年「広島市8.20豪雨災害」支援活動事業	出雲市総合ボランティアセンター運営委員会	H26.10.17
13	移送サービス用車両整備事業	特定非営利活動法人あいの会	H26.10.21
14	荒神谷謎解きクイズラリー	特定非営利活動法人出雲学研究所	H26.11.9
15	いきいきサロンスペース整備事業	特定非営利活動法人あいの会	H26.11.11

	事業名	団体名	完了年月日
16	木質バイオマスエネルギー普及啓発事業	特定非営利活動法人里山バイオマスネットワーク	H26.11.16
17	障がいをもつ子どもと支援者のための摂食講習会	特定非営利活動法人コミュニティーサポートいずも	H26.11.30
18	たっちゃんの紙芝居ライブ～again～公演事業	NPO法人浜田おやこ劇場	H26.11.30
19	荒神谷銅剣発見30周年記念イベント・第8回出雲学フォーラム『邪馬台国と出雲』	特定非営利活動法人出雲学研究所	H26.12.14
20	ホッとアートプレゼント2014	特定非営利活動法人しまね子どもセンター	H26.12.16
21	在日中国青年との交流と支援事業	特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会	H27.1.25
22	料理講習会 おうちにあるもんDEクッキング	コープおたがいさまいずも	H27.2.6
23	在日中国青年との交流と支援事業	特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会	H27.2.16
24	島根県協働事業10年間の成果と課題	島根NPO連絡協議会	H27.2.26
25	通所介護サービス施設環境改善事業	特定非営利活動法人陽だまり	H27.3.4
26	地域学習・生涯学習推進事業	特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所	H27.3.31
27	福祉のまちづくり・人づくり推進事業	特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい	H27.3.31
28	高津川トレイルルート作成事業	特定非営利活動法人アンダンテ21	H27.3.31

1. 中国における砂漠緑化および環境意識啓発

実施団体：特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会（松江市）
交付額：60,000円
実施時期：平成26年6月

教育機関訪問による交流の促進、寧夏市民との協働による植林を通じた緑化の取り組みなどを目的として、中華人民共和国寧夏回族自治区において植林活動や、地元大学訪問などによる交流活動を行いました。

6月2日（月）、翌3日（火）にかけて、寧夏回族自治区の地元工場や寧夏大学の訪問、現地での植林活動を通じた交流活動を実施しました。

経済交流の一つとして、寧夏特産品であるクコの実の博物館の見学や、寧夏大学日本語学科学生に対して日本側参加者による日本語での授業を行うなど、相互交流に寄与しました。

また、昨年度島根県と寧夏回族自治区が友好県区協定を締結から20周年記念事業として実施した植林活動を今回も継続して行い、地元との交流を深めることができました。



2. 重症心身障害児（者）療育キャンプ

実施団体：島根県重症心身障害児（者）を守る会（大田市）
交付額：70,000円
実施時期：平成26年7月

外出することが困難な重症心身障害児（者）とその家族、きょうだいが、ボランティアの支援を受けて一堂に会し、当事者が楽しんだり、家族同士が親睦を図り、また、一般の人に重症心身障害児（者）に対する理解を深めてもらうよう療育キャンプを開催しました。

7月25日（金）、翌26日（土）、クアハウス湖陵において、音楽療法などを盛り込んだ療育キャンプを実施したところ、当事者や保護者、行政関係者、一般ボランティアなどの参加がありました。

たくさんのボランティアの方の協力によって全体をとおして楽しく実施することができましたが、とりわけ、保護者同士の親睦やボランティアの方との交流は好評で、研修生や参加されたご家族から来年も実施してほしいとのご要望をいただきました。また、中学生や小学校高学年の子どもたちが、下の学年の子どもたちの面倒をみるといった成長がみられたことも大きな成果でした。



3. 第5回八雲国際演劇祭の照明器具設置改善事業

実施団体：特定非営利活動法人あしぶえ（松江市）
交付額：50,000円
実施時期：平成26年8月

平成26年11月開催の『第5回八雲国際演劇祭』では、世界中で公演活動している劇団の秀逸な作品だけを集めるため高度な照明プランを要求されることから、演劇祭来場者の満足度を高めることを目的として、既存照明設備の改善を図りました。

10月31日（金）から4日間にわたって開催した『第5回八雲国際演劇祭』には、日本はもちろん、ハンガリーやアルゼンチンなど、世界6ヶ国から選りすぐりの劇団が集い、18の作品を皆さまにお届けしました。

それぞれの作品の特徴に合わせた高度な照明プランを要求されるため、既存の照明器具をリセットし、つり込み直したことによって、より美しい舞台照明ができ、素晴らしい作品をより良い形でお客様に提供することで、演劇祭にご来場いただく方の満足度を高めることができました。

（写真提供：八雲国際演劇祭実行委員会）



4. 「世界の子ども劇場2014」視察事業

実施団体：特定非営利活動法人あしぶえ（松江市）
交付額：157,800円
実施時期：平成26年8月

国内で開催されている他の演劇公演の視察を通して、会場設営やスタッフの動きを参考にする中で、八雲国際演劇祭への来場者満足度向上につなげるため、『世界の子ども劇場2014』の視察を行いました。

8月5日（火）、静岡県浜松市で開催された『世界の子ども劇場2014』の視察を行いました。八雲国際演劇祭は来場者がとても多いため、他県で行われる演劇公演の会場の様子やスタッフの動きを参考にする中で、八雲での本番に備えることができました。

また、八雲国際演劇祭に招聘が決まっていたアルゼンチンの劇団が来日していたため、事前に招聘作品を観覧するとともに、通訳と一緒に顔を合わせた打合せができたことは、人柄にふれることができるなど、集客やステージスタッフにとってはとても効果が大きいことでした。演劇祭では大人気の演目でした。

（写真提供：八雲国際演劇祭実行委員会）



5. 自閉症スペクトラム支援啓発事業

実施団体：発達障害児支援サークル「のびのび」（益田市）
交付額：32,500円
実施時期：平成26年8月

「自閉症スペクトラム支援とは何なのか」、「誰のための支援なのか」を振り返る機会を市民に提供し、自閉症スペクトラムの人たちが「何に困っているのか」、「なぜ困ってしまうのか」を正しく理解できるよう啓発セミナーを開催しました。

8月10日（日）、益田市立保健センターにおいて、川崎医療短期大学・重松孝治先生をお招きして本セミナーを開催し、学校・保育園・幼稚園・障がい者支援機関・保護者を中心に多数の参加がありました。

自閉症の人たちがどのような点に暮らしにくさを感じているのかを知ることができ、また、「叱る」と「教える」の違いを認識して、正しい情報をわかりやすい手法で伝えることの重要性などを学ぶ機会になりました。参加者からは、「わかりやすいお話で、原点に帰り、一つずつ確かめながら聴くことができました。」というような声が多く、大変好評でした。



6. きょうだい支援交流キャンプ

実施団体：島根県重症心身障害児（者）を守る会（大田市）
交付額：79,085円
実施時期：平成26年8月

障がい児をきょうだいに持つ子どもたちが、親やきょうだいのことを気にかけず純粋に楽しみ、心理判定の専門家をコーディネートとして、子どもたちがうまく自分の気持ちを発散する場を作ることを目的とした「きょうだいキャンプ」を実施しました。

8月23日（土）、翌24日（日）、瑞穂ハイランドにおいて、障がい児をきょうだいに持つ子どもたちのための交流キャンプを実施しました。

島根県にとどまらず、県外の子どもの参加があり、ヤマメのつかみどりや、子どもたちだけで夜遅くまで話し込むなど、とても楽しんでもらうことができました。また、ボランティアで参加した学生からは「子どもが笑顔になれる場所としてとてもよい環境。来度以降もぜひ企画してほしい。」というような振り返りがありました。

きょうだい自身がのびのびと自分を表現する場となるよう、今後もこういった機会を提供していきます。



7. 中国からの日本訪問団受入、交流

実施団体：特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会（松江市）
交付額：60,000円
実施時期：平成26年8月

中華人民共和国寧夏回族自治区にある「寧夏大学外国語学院」で日本語を学んでいる学生を島根県に受入れ、島根県内の観光施設や島根大学、島根県立大学、島根県庁など、県内で様々な交流活動を行いました。

8月21日（木）から8日間の行程で、寧夏大学の学生を島根県に招き、様々な交流活動を行いました。

本事業は、寧夏の学生に島根での生活の体験を通して島根を理解してもらい、両区県の友好交流を促進することが大きな目的となっています。

また、県内大学への留学のインセンティブを高める役割を果たしており、毎年参加した学生の中から県内大学に留学する学生がいます。

報告会の中で、いずれの参加学生も再来日を希望する発言があり、その実現のために協会としてできることを考えていきたいと思えます。



8. 第5回八雲国際演劇祭の画像録画システム設置事業

実施団体：特定非営利活動法人あしぶえ（松江市）
交付額：41,255円
実施時期：平成26年8月

しいの実シアター内にある映像設備を強化し、録画機能を持ったシステムを導入することで、八雲国際演劇祭の記録保存に活用するとともに、素晴らしい作品を後世に残すための録画システム設置をしました。

しいの実シアターには過去デジタルテレビシステムは設置されていましたが、これには録画機能が付されておらず、スタッフの持ち出しにより対応をしてきました。

八雲国際演劇祭では、国内外から素晴らしい作品を集め、それらを生で体験することで来場者は大きな感動を得られますが、すべての作品を見ていただくことは難しく、また、それらの作品を後世に残していくことはとても大切なことです。

今回録画システムを導入したことで、演劇祭本番の様子を美しく再現でき、また、演劇祭に限らず平素の公演においても本システムは大いに活用ができます。



9. 福祉連携による六次産業化推進事業

実施団体：NPO法人日本エコビレッジ研究会（松江市）
交付額：50,000円
実施時期：平成26年5月から8月

障がい者の就労と健常者との交流の提供することを目的として、当団体と松江市内の社会福祉法人が協働で大豆生産（一次産業）を行いました。本取り組みを通じて、最終的には加工・販売までを目指します。

社会福祉法人さくらの家と協働して、雲南市大東町山王寺の耕作放棄地で大豆を栽培しました。

農業の担い手不足から耕作が放棄され、荒地が景観を損っています。施設の皆さんと空の下で昆虫やカエルと戯れ鳥の声を聴きながら、大豆の栽培を開始しました。見事に90kgの大豆が収穫され、味噌造りや豆腐造り（農福連携の六次産業化）を行っています。野外なので利用者にとって精神的に解放される活動でもあり、こうした活動に保護者の方々から、作業の日は息子が元気だ、娘が喜んで居るなど園芸療法と思われる効果もあるようです。



10. 防災力アップ学習会

実施団体：コープおたがいさまいずも（出雲市）
交付額：30,000円
実施時期：平成26年9月

「もし今身近に災害が起こったら？」をテーマに、日本防災協会から講師をお招きし、防災士による講演や、防災グッズの点検・準備、非常食の試食など通して、災害に対する心構えを学び、地域住民の防災意識の向上を図るための学習会を開催しました。

9月19日（金）、出雲市内において災害に対する日ごろの備えを学ぶ学習会を開催しました。

参加者の感想から、「学習会に参加したことで、非常持ち出し品の準備をしておくことが必要だと改めて感じた」や、「家の中の安全性についても考えるきっかけになった」など、啓発面においては一定の効果のある学習会を開催することができました。

今後は、より多くの方に参加してもらえるよう、情報発信の手法を工夫するとともに、参加者同士が気軽に意見交換できる場を作ることで、「日ごろの備え」に対する啓発をしていきたいと思えます。



11. 中国との経済交流の促進、在日中国青年との交流と支援事業

実施団体：特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会（松江市）
交付額：105,075円
実施時期：平成26年9月

経済相互交流の促進を目的とする事業の一環として寧夏産品「クコの実」PRや、島根大学に留学している学生との交流などを目的として、東京島根県人会にて展示ブースを設置するなど、在日留学生との交流を深める活動を行いました。

9月20（土）から5日間、東京都内において、両県区の経済交流と、県内在住留学生に広く日本のことを知ってもらうことを目的とした交流会を開催しました。

寧夏から島根県内に留学している学生は、過去の実績では半数以上が日本国内に残り、首都圏、関西圏で就職しています。現在島根県内に留学中の学生にそうした先輩の話聞く機会を提供したことは、とても有意義であったと考えられます。

また、経済交流の一環として、東京島根県人会総会会場にて展示コーナーを開設し、クコの実の試食、配布などを通じて広くPRすることができました。



12. 平成26年「広島市8.20豪雨災害」支援活動事業

実施団体：出雲市総合ボランティアセンター運営委員会（出雲市）
交付額：100,000円
実施時期：平成26年9月から10月

平成26年8月20日に発生した「広島市8.20豪雨災害」で被災した広島市内において、出雲市民などによるボランティア活動（家屋の泥だしや家財の搬出等）を行い、豪雨災害によって被災された方の支援活動を行いました。

災害発生直後から、出雲市民の方々から支援の申し出があり、当センター運営委員会が他の関係機関と協働で支援活動に関するミーティングを開催しました。

その後、当センター関係からは延べ29名の災害ボランティアが実際に被災地（広島市）で4回の支援活動を行いました。

活動先は被災した市民有志によって立ち上げられたボランティア活動拠点で、活動までの流れがスムーズであったこともあり、ボランティア参加者から「より被災者のニーズに応えることができたと感じる。」という感想があるなど、きめ細かな支援活動を行うことができました。



13. 移送サービス用車両整備事業

実施団体：特定非営利活動法人あいの会（浜田市）

交付額：60,000円

実施時期：平成26年10月

高齢者や障害者などの公共交通機関を使用して移動することが困難な人を対象に、通院、通所などを目的に移動支援（外出支援）事業を実施しています。利用者にとって安全なサービスを提供するため、移送用車両の整備を行いました。

高齢者や障がいのあるの方々に『少しでも長く、住み慣れた地域で暮らしていただく』ために、外出支援事業を実施しているところですが、この外出支援のために使用している車両は、1ヶ月の平均走行回数が100回、平均走行距離が3,000キロメートルと稼働率が高いため、タイヤなどの摩耗が非常に激しい状況にあります。

公共交通機関を利用して移動することが困難な人を安全に送迎するためには車両整備は必須であり、本事業を通じて、安心して移送サービスを提供できる環境整備を図ることができました。



14. 荒神谷謎解きクイズラリー

実施団体：特定非営利活動法人出雲学研究所（出雲市）

交付額：174,829円

実施時期：平成26年11月

今年は荒神谷銅剣が発見されて30年。来年は銅鐸・銅矛が発見されて30年になる。これを機に、一般の方にも荒神谷について楽しみながら知ってもらい、古代出雲がどのような地域だったのかを考えるきっかけづくりを行うためのイベントを開催しました。

11月9日（日）、荒神谷史跡公園敷地及び博物館において、一般県民を対象とした荒神谷に関するクイズラリーを開催しました。

参加者はクイズを解いていく中で、遺跡の発見からちょうど30年が経過していることや、出雲神話のことなど、遊び感覚で楽しみながら学べる企画を通じて様々なことを学んでいくことができたのではないかと感じます。

また当日は、地元中学校の生徒がボランティアスタッフとして協力してくれ、遊び心を持ちながら、参加してくれた子どもたちの対応をとっても上手にしてくれたことも大変好評でした。



15. 木質バイオマスエネルギー普及啓発事業

実施団体：特定非営利活動法人里山バイオマスネットワーク（松江市）
交付額：56,500円
実施時期：平成26年11月

「2014 松江市環境フェスティバル」でペレットストーブや循環型エネルギーのパネル展示を通じて、市民の地球温暖化防止及び木質バイオマスエネルギーの地産地消への理解や関心を深めるためにブース出展しました。

11月16日（日）、くにびきメッセ開催された環境フェスティバルに出展しました。

老若男女を問わず、森林の整備や太陽光発電の必要性は少しずつ理解されるようになりましたが、循環型エネルギーである木質バイオマスについては未だに知名度が低いため、エネルギーの地産地消を考えるには実例を交えた普及啓発を市民にしていく必要があります。

実際に、ブースに立ち寄っていただけ方々はペレットストーブ実物に関心を持たれることが多く、より多く普及させるためにも、森林を利用していくという視点の啓発を引き続き行っていきます。



16. いきいきサロンスペース整備事業

実施団体：特定非営利活動法人あいの会（浜田市）
交付額：156,000円
実施時期：平成26年11月

地域の子どもたちの自由な遊び場や、高齢者の居場所として、当法人施設内に「いきいきサロン」を設けています。子どもたちが遊びやすくなるよう、安全に配慮したサロンスペースの整備を行います。

地域に役立つ場所となるよう、夏休みの子どもたちの遊び場や、日頃の高齢者の居場所として法人施設内にサロンスペースを設けています。親子で遊びに来られたり、地域の高齢者がグループでの利用があります。

しかし、サロン内にかばんなどを収納するスペースがないなど、改善しなければならない部分があったため、今回本事業で収納棚を増やしたり、机・いすを整備したことで、利用者にとってより安全に配慮した整備をしていくことができました。

環境整備により、サロン内での活動回数、人数とも増えつつあります。今後もさらなる利活用に努めます。



17. 障がいをもつ子どもと支援者のための摂食講習会

実施団体：特定非営利活動法人コミュニティサポートいずも（出雲市）
交付額：80,000円
実施時期：平成26年10月から11月

身体、知的ともに重い障がいのために食べることが苦手な子どもと、そのご家族が安心して生活できる地域づくりに貢献することを目的として、普段学ぶ機会が少ない摂食に関する講習会を専門家を招いて開催しました。

10月18日（土）、松江医療センターにおいて、小児科医講師による摂食講習会（今回で5年目）を開催しました。重い障がいのために食べることが苦手な子どもたちと、その保護者を中心に、福祉関係者、特別支援学校の先生など、幅広い参加対象としています。

当日は、全体への講義に加えて、希望者への個別指導も行いました。個別指導受講者からは、「個別に相談することができたので細かい点を詳しく聞くことができよかった。」という感想がありました。

継続的に摂食をテーマにした講習会を開催し、きめ細かな学習の提供を今後もしていきます。



18. たっちゃん紙芝居ライブ～again～公演事業

実施団体：NPO法人浜田おやこ劇場（浜田市）
交付額：100,000円
実施時期：平成26年11月

生の舞台を観たことのない人に体験してもらい、鑑賞後に親子や家族、友達と「観たときの気持ち」や「感じたこと」を共有してもらうことで、その後の関係作りの一助とするため、プロのパフォーマーによる紙芝居ライブ鑑賞会を実施しました。

11月30日（日）、いわみーる（浜田市）において、紙芝居ライブの鑑賞会を開催し、約160人の方の観覧がありました。

子育て仲間のお母さん方が誘い合って参加され、終わってからも子どもの反応の違いや紙芝居の感想を話すなど、「生の舞台鑑賞」の素晴らしさを感じてもらうことができました。こういった機会を子どもたちに与え、また、保護者にとっても「観る」だけでなく、そこで知り合った人同士が「友達」になれる場所でもあります。今後も、一人でも多くの方にこういった体験ができる場を提供していきたいと思っております。



19. 荒神谷銅剣発見30周年記念イベント・第8回出雲学フォーラム『邪馬台国と出雲』

実施団体：特定非営利活動法人出雲学研究所（出雲市）
交付額：55,196円
実施時期：平成26年12月

近年、古代出雲が大和建国に大きな影響を与えたと考えられるようになってきている中で、日本の古代史を語る上で欠かせない「邪馬台国」と「出雲」はどのような関係であったのか、専門家を招聘して一般県民とともに考えるためのフォーラムを開催しました。

12月14日（日）、斐川文化会館において、古代出雲と邪馬台国の関係を学ぶためのフォーラムを開催しました。

当日は、約150名の方の来場があり、文学専門家による基調講演などを非常に熱心に聴講いただきました。「邪馬台国と出雲地方の関連については、これまであまり深く語られることがなかったが、直接的なつながりは明確でないにせよ、今後の参考になる講演でした。」など、参加者の満足度も高かったように感じます。

今後も地元の歴史、文化に関する啓発を継続して行い、魅力アップにつなげていきます。



20. ホットアートプレゼント 2014

実施団体：特定非営利活動法人しまね子どもセンター（大田市）
交付額：195,000円
実施時期：平成26年7月から12月

闘病中の子どもたちのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上のため、島根大学医学部附属病院小児センターにプロによる人形劇や音楽ワークショップ等を届け、子どもたちに笑顔と楽しい時間をプレゼントしました。

7月29日（火）、島根大学医学部附属病院において、入院中の子どもたちにプロによる人形劇を届けました。

その後、8月にはミニ絵本づくりワークショップ、10月には音楽療法士によるワークショップ、12月のクリスマス会などを実施する中で、子どもたちやそのご家族に喜んでいただける活動ができました。

実際に、『みんなで笑う』『実際に楽器で音を出す』『みんなで歌う』『自分でつくる』といった機会を提供することで、子どもたちだけでなく、保護者、病院スタッフ、みんなの心に元気を届けることができたと思います。



21. 在日中国青年との交流と支援事業

実施団体：特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会（松江市）
交付額：31,440円
実施時期：平成27年1月

中華人民共和国寧夏回族自治区との交流活動の一環として、島根県内交流関係者と島根県内在住の寧夏からの留学生を集め、日本・中国それぞれの文化を体験する交流会を開催しました。

1月25日（日）、松江市内において、島根県内在住の寧夏出身留学生と県内交流関係者による交流会を開催しました。

従来は食事をとりながらの懇談のみでしたが、今回は参加者同士が気軽に交流できるよう、旧暦の新年を迎える時期に日中双方の特徴的な食文化である餅つきと餃子作りを初めて試みました。一緒に作業しながらの交流会であったため気楽に話をする事ができ、効果があったと考えられ、参加した島根大学留学生からは「正月に帰国できない学生が多い中で、集まって正月行事ができたのは楽しかった」という感想が寄せられました。



22. おうちにあるもんDEクッキング

実施団体：コープおたがいさまいずも（出雲市）
交付額：30,000円
実施時期：平成27年2月

利用者からの依頼は食事作りなどの家事応援が多い状況にある中で、栄養士を招いて食事作りに関するアイデアや身近な食材を使った食事作りについて学び、応援者のスキルアップを図るための料理講習会を開催しました。

2月6日（金）、出雲市内のコミュニティセンターにおいて、サービススキルアップのための料理講習会を開催しました。

独居高齢者など、サービス利用者からの依頼の多くは食事などの家事支援であり、家庭にある食材を見てから作る料理を考える場面は少なくありません。

専門家を招いて、身近にある食材を使って栄養に配慮したメニュー作りを学ぶことは、利用者へのサービス向上につながり、利用者により喜んでいただけるため、今後も継続的な学習会を実施していく必要があります。



23. 在日中国青年との交流と支援事業

実施団体：特定非営利活動法人日本寧夏友好交流協会（松江市）
交付額：75,660円
実施時期：平成27年2月

在京寧夏出身者のほとんどが島根大学・島根県立大学の卒業生であり、地方交流を発展させた民間交流活動はあまり例がなく、交流関係者に関心を持ってもらっているため、その一環として交流会を開催しました。

2月15日（日）、東京都内において、在京寧夏出身者と交流関係者などによる交流会を開催しました。

関東在住の寧夏出身者との交流を目的として開催してきましたが、年々参加者数が増え、日中双方の顔ぶれも多彩になってきました。また、寧夏出身者の家族ぐるみの参加も増えてきました。

留学生が中心の島根での交流会と違い、生活・文化など幅広い話題について意見交換をすることができ、また、中国大使館や都内の中国語学教育施設からの出席もあり、地方交流からの発展がみられています。



24. 島根県協働事業10年間の成果と課題

実施団体：島根NPO連絡協議会（大田市）
交付額：55,000円
実施時期：平成26年9月から平成27年2月

島根県で過去10年間にわたって実施された「協働事業」によって得られたものや、事業を進める上で課題となっていたことなどを、実際に事業を実施したNPOから聞き取り、今後の事業設計に活かすためのレポート集を作成しました。

島根県で協働事業がスタートしてから10年が経過し、多くのNPOと島根県行政担当課等が事業を実施してきました。

その中で、モデル事業としてスタートしたものが今でも継続しているものがあるなど、一定の成果があった一方で、事業を進める上での課題もあったはずで

実際に協働事業に取り組んだいくつかのNPOへのヒアリングをもとにふり返り、NPO同士が相互に経験を学び合い「もっとこうしたらどうか。」というようなことを議論する中で、そこから民間として県政への提案に導いていきたいと思



25. 通所介護サービス施設環境改善事業

実施団体：特定非営利活動法人陽だまり（益田市）
交付額：33,740円
実施時期：平成27年3月

高齢者など福祉を必要とする人たちが安心して暮らせる福祉社会の実現と地域福祉の向上を目的として、通所介護事業を展開していますが、施設の一部に老朽化が見られることから、利用者へのサービス（安全性）向上のため、施設内に手すりを設置するなどの改善を図りました。

民家を利用して家庭的な雰囲気の中で、利用される方の体調やペースに合わせ、きめ細かなサービス提供に努めていますが、民家であるがために、建物が古く段差があったり、老朽化が見られていました。

今回本事業で、玄関に踏み台を設置したり、施設内の手すりを増やしたことによって、利用者がより安全にサービスを利用できるようになりました。

また、これまで廊下には簡易な照明しかありませんでしたが、照明器具を取り付けたことによって、利用者の施設内移動時の安全面が確保できるようになり、サービスの向上を図ることができました。



27. 福祉のまちづくり・人づくり推進事業

実施団体：特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい（松江市）
交付額：499,000円
実施時期：平成26年5月から平成27年3月

障がいのある方の旅をサポートする「バリアフリーまち歩き情報誌」の発行や、障がい者の就労支援のためのパソコン購入、障がいのある子どもたちのための紙芝居イベントなどを通じて、「福祉のまちづくり・人づくりの推進」を目的とした様々な事業を実施しました。

バリアフリーまち歩き情報誌「てくてく日和」を発行するため、車イスを使用する障がい者とともに現地取材を実施、執筆編集、印刷配布しました。発行部数は6000部。島根県内の観光案内所や道の駅、全国のバリアフリーツアーセンター、山陰合同銀行の全支店にお送りしました。

また、12月14日には、他のデイサービス事業所と共催による子ども向け紙芝居イベントを開催しました。紙芝居の後には、障がいのある子どもたちによって結成された楽しい楽団の演奏もあり、子どもたちに大好評でした。



28. 高津川トレイルルート作成事業

実施団体：特定非営利活動法人アンダンテ21（益田市）

交付額：50,000円

実施時期：平成26年8月から平成27年3月

高津川流域の懐深いポテンシャルのある自然環境を、自然派ツーリストや地元流域住民が生きている遺産としてもっと身近に感じてもらうことができるよう、具体的なトレイルコースの作成や成果共有のためのセミナーを開催しました。

高津川流域の自然環境は多様性に富み、トレッキングに適した魅力ある地域資源に満ちているが、これまでツーリストや流域内の市民がそれらに触れる機会があまりありませんでした。

そこで、この地域の交流人口の増加と市民にもっと高津川流域の自然を身近に感じてもらうため、津和野町左鐙から益田市匹見町に至るトレイルコース（約20km）を設定することが必要と考え、奈良大学の研究者や学生の方とともにコース内の現地調査を実施しました。

この調査結果をもとに、平成27年秋には、具体的なトレイルコースのプランを作成し、広くみなさまに公開したいと考えています。

